

『映画之友』電子書籍 復刻版 ページ見本



15



9



9



207



「馬」の三人

東宝映画「馬」の演出者山本嘉次郎はさまざまな種類の映画をうまくこなすひとである。そのどれもこれもが、山本嘉次郎の手にかゝった途端それぞれ傾向を代表する映画としていゝものになるなら、このひとは神様である。なにをやらしても卒がないと云ふ人間はなんでもいろいろのことができる才能があるといふことがその人間の特色であるが、そのひとでなくてはできない、絶対に近い可能を缺きがちなものである。これを映画作家山本嘉次郎のことにむすびつけて考へると、あんまりいろいろな映画をこしらえるのでこのひとの映画に對する理想、云ひかへればどういふ映画がかれのころからやりたものであつたか、僕にはつかめない「坊ちゃん」や「綴方教室」は僕の大いに好意が持てる作品であつたし、おもしろかつたので、御當人の氣持はどうあらうとこの二作を以て彼の映画に對する大理想のひとつがわかれ／＼の前にほとぼしり出たものと勝手に僕はきめてゐる。ところで「馬」は映画に對する彼の純粹なころもちが前二作よりもつとあきらかにされる作品ではないか、一年以上もこの製作に頭張り通してゐる製作事情からさう考へるだけであるが――人間よくとくづくひとつの仕事に一年も全精力をふちまけられるものでもない。文化に關する仕事には先づなによりもかうしたころの、發動が第一條件である。「馬」のカメラをうけもつ三村明は近年のアメリカ映画撮影技術を特に深く研究したひとで、代表作には「綴方教室」「光と影」などがある。

(右から三村明、主役の高峰秀子、山本嘉次郎の三氏)

友田純一郎

撮影・早田雄二

小津安二郎の
『戸田家の兄妹』
撮影開始!

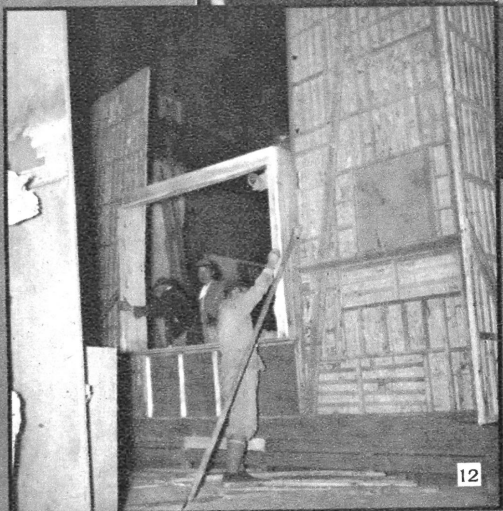


(寫眞説明) ①は雨宮
家セツトに於ける坪内
美子と高峰三枝子。②
は高峰と桑野通子。③
はセツトの俯瞰圖、ソ
フトを被つて立つてゐ
るのが小津監督。④は
構圖に凝る小津監督。

普通寫眞部 (11)
 かうして撮影の準備が進められるの
 に並行して、その作品の宣傳が始め
 られる。出演者によるスチルの製作は、普通寫眞部がそ
 の映画のテーマを表現したものを撮影する。出来たスチ
 ルは雑誌社、新聞社等に送付され、宣傳戦が開始される。
 寫眞は日活普通寫眞部員松島進氏である。(日活)



11



12

セット組立て (12)
 監督と美術部員とで協
 議されたセットのデザ
 インが進行課の手を経
 て、大道具に廻ると、
 撥當の部員達はセット
 の組立てに取りかゝ
 る。セットが組立てら
 れると小道具部による
 飾り立てや照明器具の
 取付が行はれる。寫眞
 は東寶大道具のセット
 組立て風景。(東寶)



13



14

ミニチュア・セット (13)
 ステイ
 ゼ内の
 セットの
 或はロケーションで撮影の
 出来ない部分は、ミニチュ
 ア・セットを使用する。寫
 眞は日活美術部進藤誠吾氏
 とミニチュア・セットであ
 る。(日活)

豫定表 (14)
 愈々撮影が開
 ふされると毎
 日翌日の撮影豫定が発表さ
 れる。豫定発表の時間は大
 體午後五時頃である。寫眞
 は新興大泉に於ける豫定の
 発表である。(新興)



(左から) 田依・口溝・雀扇・助義 ↓

監督口溝きしるよれ入ひ思

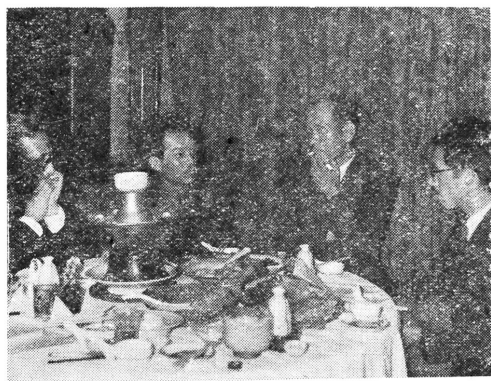
(解説) 溝口健二、依田義賢の二人は故中村鴈治郎追善の新作『藝道一代男』で再び藝道修業話を描く。鴈治郎とその父中村鴈雀の不仲が骨子になっている。また藝道のものか、と食傷気味の障もある。溝口、依田のコンビ作品は『残菊物語』『浪花女』『藝道一代男』とこのところ藝道ものがつづいた。嘗つてもこのコンビは第一映画時代に『浪花悲歌』から『蔵園の姉妹』へと、女の世界ばかりを突きつめてゐる。『残菊物語』『浪花女』を生きた教訓として、溝口監督は、この映画を藝道ものの決定版たらしめるだらう。そこに期待はある。原作は川口松太郎だ。

——安政七年三月六日新町、鴈治郎の全盛扇座のひとり娘お妙と、嵐狂蔵との間に玉のやうな赤ん坊が生まれる。これが玉太郎、後の中村鴈治郎である。ところが芝居の忘れられない狂蔵は、玉太郎とお妙を捨て、その方に走り中村鴈雀と名乗る。映画の物語は、玉太郎が二十歳になつ



作回次の二健口溝

々人るぐめを「男代一道芸」



座談會

新しき時代劇のために

出席者 (イロハ順)

伊藤 大輔
稲垣 浩
野淵 昶
衣笠 貞之助
本誌・小倉浩一郎

時代劇は行き詰つてゐるか。時代劇の生きる道はどこにあるか。時代劇に課せられた問題は数限りなくある。今こゝに時代劇界の重鎮が顔を揃へて彼等の道を説く。時代劇の再建設は近きにある。時代劇の製作者たちよ、日本映画界のために頑張つてくれ！

寫眞、右より稲垣浩、野淵昶、伊藤大輔、衣笠貞之助の諸氏

時代劇の不振について

記者 雨の中を有難度う御座いました。本日は、時代劇について、縦横に語つて頂きたいと思ひます。皆さんだけで、思ふままのことをしゃべつていただきたいため、他に司會者のな人を呼びませんでした。總べて、皆さんで話題を選んで進行して下さいませう。

伊藤 近年時代劇が振はないと云ふのは、一口に云へば面白い作品が出ないからだと思います。

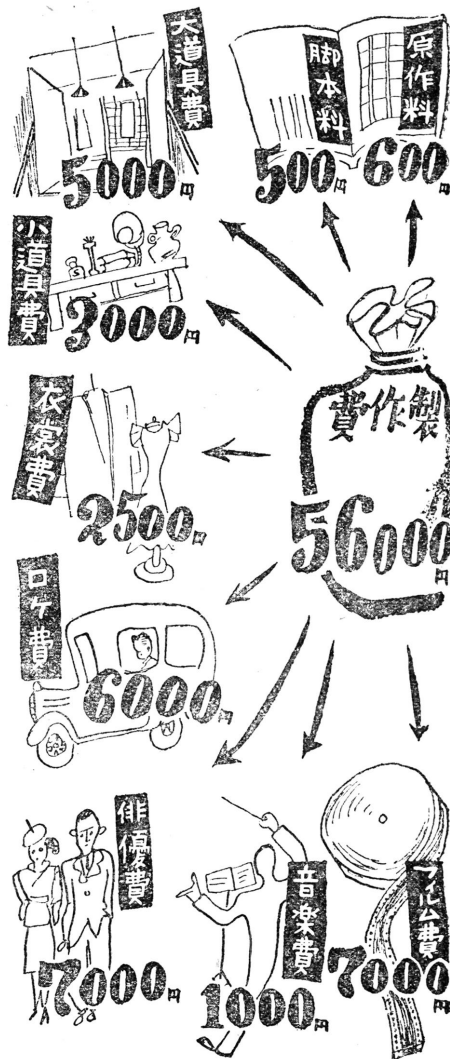
らぬからですよ(笑聲)。
伊藤 僕が人殺しをさせぬからかな。とにかく最近當つたのは「蛇姫様」くらいなものだ。
衣笠 「宮本武蔵」も當つたんぢやない？
稲垣 併し「蛇姫様」のヒットとは相當の開きがあつた様です。東寶は、どうなんですか？
衣笠 イヤ、数は少いが撮ります。…時代劇はむづかしくなつたね。
伊藤 數年前まではちよん髷をつけて、刀をふりまはしてたら時代劇だつた。
稲垣 スターの顔が定まり過ぎたので面白

くなくなつたと云ふ説があります。「女と海賊」など、勝見庸太郎がちよん髷をつけた面白さだつた。
伊藤 大河内も、從來の時代劇スターの顔をぶちこはして、客に受けたんだな。
衣笠 俳優にストーリーを當てはめてゐた。物語から俳優を選ばず、先づスターがあつて物語が決まつた。これで客が來た事もいけなかつた。併し、今や新體制で、それぢやいけなくなつた。首腦部も、作家達も、これはいかんと、やうやく思ひ當つた。一本卅日くらあで撮つて、結構客が來る。ぢや、これでい

んだと會社側は思つてしまふ。さう思はせた事は、我々も大いに責任があるのだが…。
伊藤 一本卅日は贅澤だ。防空演習と云ふ映画がある。燈火管制十日完成——。
(苦笑)
衣笠 近頃の作品はもう器用だけでは振れなくなつてゐる。物を調べたり、組立てを考へたり、準備に随分の日數が要る。今日の時代劇は、現地へ腰をすめて、じつくり調べ、その上で脚本も書き撮影にもかゝるべきだ。併し、會社は依然として、そんなに本腰を入れさして呉れな

映重は幾ら出まかる

ここに映画製作者の虎の巻が公開された。一本の映画にはどれ位の費用がかかるか。この一文によれば、映画製作費の全貌が細目にわたつて一目瞭然たりである。



映画内容の質的向上と資材の節約を旨として、映画界もいよいよ新体制に即應し、今年からは、東寶、松竹、日活、新興、大都の五大會社が劇映画年四十八本、極東、全勝の兩社が各十二本、東映、南旺の獨立製作社が各六本と映画法によつて製作制限することになった。

いままでは、作品の良否は二義的に考へて、一週二本の興行番組を埋めて行くために、一年に約五百本の映画が各社で製作され、先づ最少の製作費で最大の利潤をあげようと唯々製作費の削減縮小のみを上策としてゐた映画會社も、これからは、一本の強力映画で戦ふ一本立興行となるために、勢ひ、作品の質を充實した大作本位で進まざるを得なくなり、必然的に、日本映画の進歩發達を阻めてゐた弊風がこれで改めら

れて來るに違ひない。

さて、一本の劇映画は、どの位の製作費で出来るのであらうか。これは、いままで、時に應じて鬼面人を驚かすやうな宣傳効果を狙つて、誇大な数字が羅列されてゐたが、實際はどの會社もその数字を明示してゐないのである。けれども新體制下のこれからは、特別の企業作品でない限り、配給収入とのバランスを基準にして、一本當りに平均した製作費が計上され、しかも、從來より多額の費用を一本に集中計上されることになるだらう。

一本の映画の製作費は、その製作會社の規模、製作機構と製作態度、配給市場と企画選用の大小、良否によつて大々異なり、これを平均に基準算出することは、まことに困難であつた。

例へば、東寶映画は、一巻平均八百呎とする六七巻の普通作品に對して三萬圓内外の製作費を掛けてゐるし、超特作品になると、「燃える大空」や「蛇姫様」のやうに、實際の撮影日數百五十日も費して、廿五萬圓にも上る製作費を計上したりする。日活多摩川の映画となると、この撮影所はその全經費を十一萬圓で本社から請負つて、月四本の作品を本社に製作提供する仕組になつて居り、これを一本當りに割當てると、二萬八千圓内外となる。同様に、新興キネマ大泉撮影所は、全經費十萬圓で月四本が製作され、一本當り二萬五千圓を計上し、松竹大船撮影所作品は、一本平均二萬五千圓内外で、「西征戰車長傳」のやうな超特作品には、これ以外の特別製作豫算が計上される。勿論、これらの撮影所の所長は、本営業部と打合せの上、この月額の製作費を夫々の作品企画に應じて、例へば「土と兵隊」「土と長隊」の場合のやうに、その一本當り平均額の三倍近くまで多額に計上し、その犠牲となる普通作品は、一本一萬五千圓位に削減されたりすることがある。

ひるがへつて、大都映画や、全勝、極東などの二流會社は、一巻八百呎として四五巻の長さの普通作品から超特作と稱される六七巻位の劇映画を、製作日數一週間内外、製作總經費五千圓から八千圓位までの間で製作してゐるし、東映、南旺などの特殊企

白米映画用語 が人王に死なされたら

いろいろな言葉が入りまじつて、こゝに
独特な映画用語が出来あがりました。若
し舶来用語が禁止されたら、それこそ大
変な騒ぎとなりませう。當るも當らぬも
興味の深い、二氏の豫想をお聞き下さい

てれすこ物語

山本 嘉次郎

1 スタチオ街は大騒ぎ

「お早やう。」

「お早やう。いゝ月夜だね。」

撮影所といふところは、をかしなところである。

そも／＼、お早やうといふ文句は朝、もしくは午前中に交はされる挨拶であるべき筈であるのに、朝でも、晝でも、晩でも、人の顔を見さへすれば、お早やうである。

これは、坂田藤十郎時代から發してゐる——といふほど、ひらき直る必要もあるまいが、芝居（シバヤ）と發音して下さい」と

いふものは、そのむかし午前四時頃から初まつたのである。見物が来る來ないは別として、まだ夜の明け切らぬ中に、打ち込みの一番太鼓を入れ、それから、頭取の三番、變などあつて……そんな事はまあ好いとして、従つて、役者は、暗い中から樂屋へつめかけたので、顔を合はせるなり、出る挨拶の文句は、「お早やう」以外にあり得なかつた。それ程、早かつたのである。

ところが、昭和の今日、午後六時開演であれ、傳統の力はおそろしいもので、樂屋入りの挨拶は、お早やうに限られてゐて映画界にもその風習が傳はり、かくて、

「お早やう。いゝ月夜だね。」
となつたのである。

これは、とりも直さず、わが映画界はその發展期に於て、多分に芝居道よりの輸入と補佐を仰いだといふ、わが映画史上に、歴々たる證左となるべき、好適なサブジェクトである——なんて、こゝでは、どうでもいゝことだが、さて、お早やう、を問題とする理由は、次にある。

「よオ、コンちゃん。昨日ね、某所で、パイをやつたところが、そのゴイル（わかりますか。GIRLを、かく、カルフォニアにてはいふさうですが、ちよつとばかりシエーンでしてネ、わしやもつばら、テンハオですわ。」



日獨伊なら好いが、これ
ぢや、ゴモク・ランタン・
ヤキメシの、たぐひ以上である。
こゝばは、神聖であるべきとは、わが國
だけではない。

「ロゴスは、神なりき。」

と、新約の福音書でも云つてゐるやうに、ロゴス即ち、言葉は、神聖であり、コトダマと、われも古くよりこれを崇めてゐるのである。

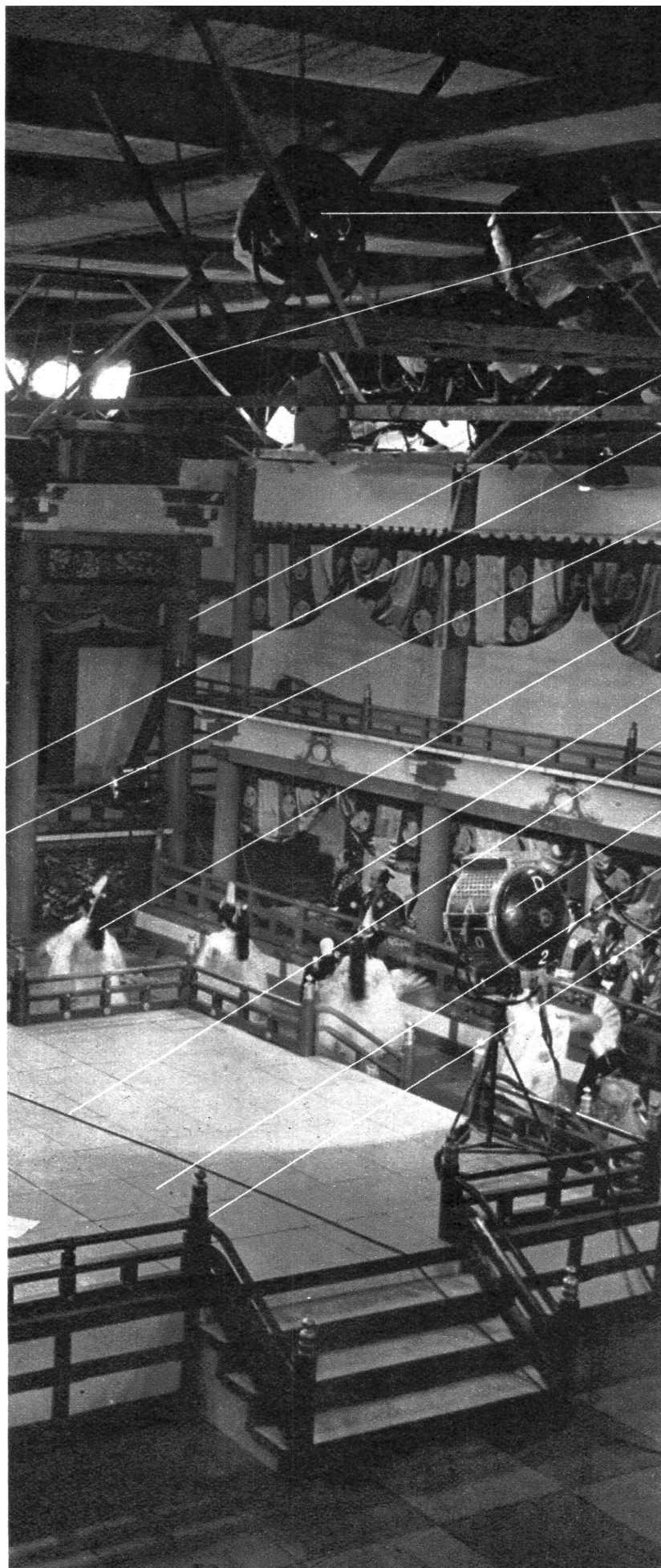
それを、なんぞや。かくも、亂れ、すたれ、モミクチャになるなんて、その現象こそは、まさしく、わが映画史、作品傾向、活動屋生活、等、等、等、を物語る絶好の主題であらうと、ツトにねらつてるところだが、その、活動屋用語の變遷にも、確然たる、エポックがあるから、面白い。

「かゝるメトードをアフヘーベンし、吾人は直接にザハリツセねばならん。」

なぞといふ、時代をすぎ、

「ボクらのエキゼキューティヴが、極端にリスクをおそれてゐるんですねえ、そこで、一本、レリーフを立てるんだが。」

といふ時代も昨日となつてしまつたのである。



これがセツトだ

「家光と彦左」セツト見學

トツボス・ンサ

て板ヤニベ
柱たつ作

匠意工石・壁

子公町櫻
(す扮に子櫻)

子 拍 白
(隊踊舞寶東)

名大諸

一モ・ラメヤキ
ドーコ線電一タ

トツボス・ンサ

臺舞大

りす手のりぬ朱

このセツトは東寶東京作品「家光と彦左」(マキノ正博演出、長谷川一夫、古川緑波主演)の場面二十八「千代田城吹上御苑」の場である。將軍家光、彦左をはじめ、大老、老中、若年寄の面々を前に、白拍子櫻子の率ゐる多勢の踊り子達の絢爛たる踊りが終つたところである。

「彦左驚いて、怖れ乍ら我君、身分卑しき女に上様直々御盆などもつての外。」家光「爺、うるさいぞ」と盆を與へ「うんそうぢや、余とその方と二人で連れ舞ひを致そう、よい構はぬ……それ歌へ……」他方、樂器と歌、かくて家光、櫻子を連れて舞臺に上り、踊り初めるのであるが、この一枚の撮影スナップから、セツト撮影とはこんなものであると思ふ。云ふ事は分つていたよけると思ふ。

裝置 中古智氏

支那事變勃發
ニユース専
門館漸減
を契機として
主要都市は勿論全國的に繁
出したニユース専門の小映
画館は大盛況を示し俄然時
代の寵兒となつたが、ニ
ユース映画の統制、文化映画
指定上映等の影響で漸次凋
落の一途を辿る形勢にある

一本立興行必至の情勢

日活「討入前夜」山高幡
 子「母系家族」山岳武
 士「短篇「父歸る日」
 東寶「兄の花嫁」曉の進
 發「お醫者さん」新篇
 坊つちゃん「短篇「なつ
 かしの顔」島は夕やけ」
 新興「白衣の天使」江戸
 の紅姿「南國繪卷」短篇
 「神崎東下り」鐵火くる
 ま
 大都「柘榴一角」日柳燕
 石「

このうち、大都は一月
 三週映画も、舊版

通検の外、再映週興行を
 行つたため二本といふ少數
 になつたものだが、此の外
 新興が「暖かきふる里」罪
 なき町「裸一貫」短篇「大
 石山鹿護送」花嫁峠」等
 舊版作品があり、東寶が東
 發作品「大地に祈る」や、
 東日大毎作品「蘭印探訪記
 を公開し、外、各社共舊作
 が一、二本宛ある。

文部省では児童映画關係業者と懇談會を開催した結果將來官民合同の児童映画製作委員會(假稱)を設置し映画教育指導に萬全を期すことになつた。

作品の重點主義から各社
 が東西俳優交流の配役刷新
 は「東京から來た武士」元

映画翼賛懇談の成果

た政治翼賛會では映画國策の確立、映画文化の指導改善に協力の立場から松竹、日活、新興、東寶、大都、東映、南旺等の映画各社及び東和商事等の邦人映画配給者と個別的に懇談を遂げた結果、業者は忌憚なき意見を吐露したがその主なるものを挙げる。

一、映画政策は東亞共榮國を目標とし改善指導されたい、即ち當局の接関や指導は餘りにも國內を基準とし過ぎる傾向がある。

一、今後必要と關係官廳と密接な連絡を要するが、現在では一問題處理するのに各官廳を歴訪して猶且目的を達し得ない場合もあるから、速に統一處理の出来るやうに希望す。

一、治安の立場から行ふ映画檢閲官が文化的指導の立場に立つ時往々満足出来ない場合もあるからこれが改善を考慮されたい。

一、洋映画配給業は邦人經營の歐洲映画配給とアメリカ映画支社とがあるが従來輸入に際し兎角アメリカ映画社を主とし邦人業者を從とする傾向があるから此の弊を一掃し日本國民としての眼に國情を理解する邦人業者を優遇されたい。

これに對し翼賛會では更に文化映画業者とも懇談を行ひこれ等の聲を基礎として關係官廳と協議を進め下意上達の役割を果たす筈である。



祿女「きやくにょ」振袖御殿等に三浦
 光子、小林十九二、坂本武
 阿部正三郎、磯野秋雄、三
 井秀男等が大舉出演、また
 新興京都では「愛の砲術」

に古川登美「雲雀は空へ」
に山口勇、更に日活京都の
「伊達大評定」に瀧口新太郎
「一乗寺決闘」に吉田一子
これに對し關西勢の現代
劇出演は上映済みの日活
「母系家族」に宮城千賀子
と新興東京「南国繪卷」
に荒木忍、松竹大船に「
「歌女おぼへ書」に富本民
平「十日間の人生」に高
田浩吉が出演契約をしを
する（寫眞は振袖御殿）
に出演の三浦光子」

獨・伊に贈呈

陸軍省情報部が多年の日子を費して東寶に依頼して製作、昨秋公開した航空映画「燃ゆる大空」のドイツ版にイタリヤ版がこの程完成、日本武士道の精髓を發揮したものとして東條陸相からヒットラー總統にムツソリーニ首相に宛贈呈されることになった。

ドイツへ

「燃ゆる大空」の獨伊行き
に次いで松竹映画「西住戰
車長傳」が陸軍省、情報局
の肝煎りで獨逸に送られる
ことになった。

映画委員会

映画法により映画界は根本的な改革へと進んでゐるが、同法運用の妙諦を發揮する爲主務大臣の諮問機關として設置された官民識者を委員とする映画委員會は、昨秋政府の諸經費節減の趣旨から廢止と決定した。

帝都興行街画譜

浅草・丸の内・新宿

吉田貫三郎 文と繪

例へば、丸の内にある映画館の
どれでもいゝその一つをそのまゝ
浅草の映画街へ持つて行つてスツ
ポリとはめこんだすると、その
一割だけがまるで火が消えたやう
に淋しく、見窄らしく感じるに違
ひない。
好みの悪い表にバツと出ない、
それだけにこまかい神経の行きと

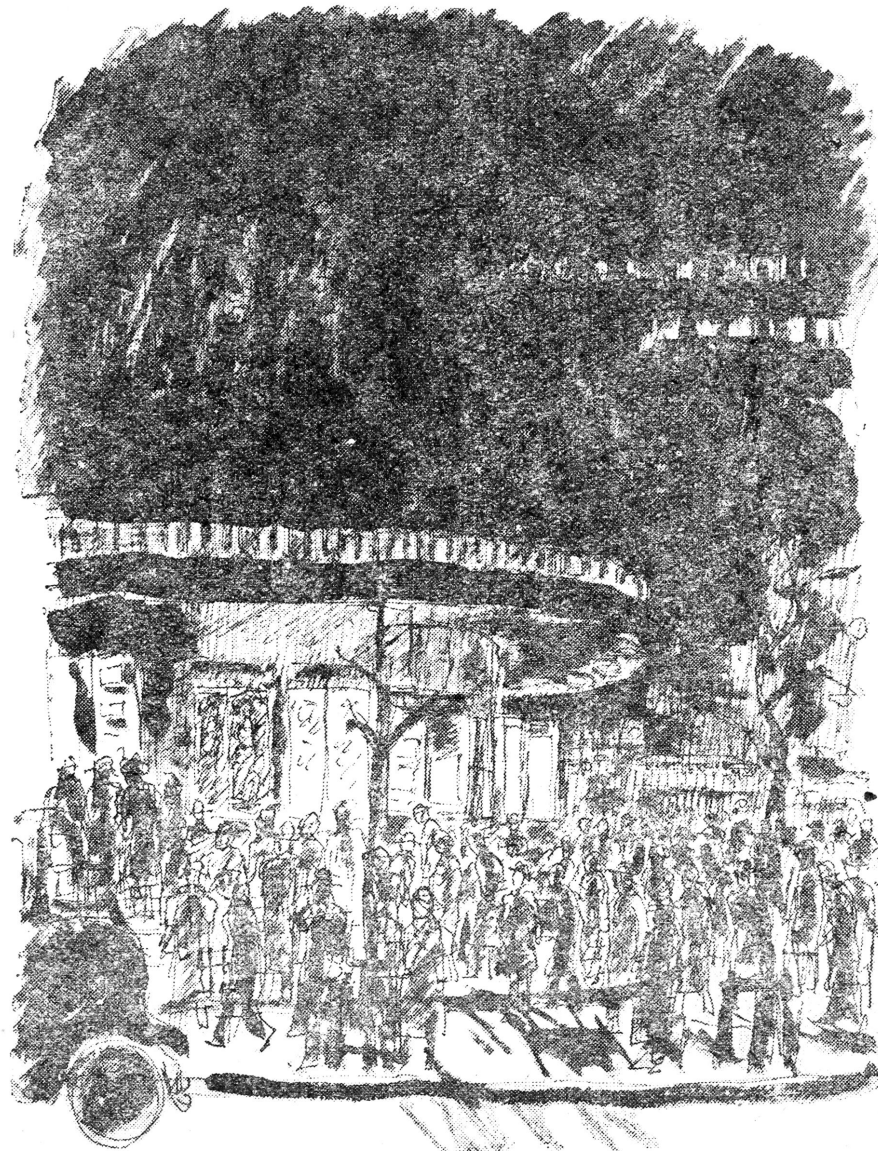
工をする必要がな
目を索くやうな細
いぞといふ風に人
中でも特別に面白
このやうに面白い
ところの映画は、
ある。だから私の
映画館が點在して

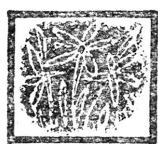
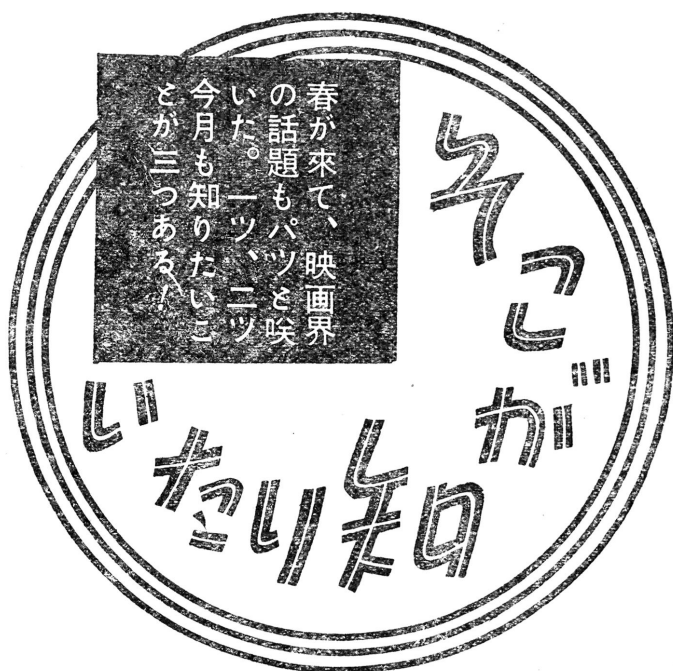
といった、所謂銀座好みの服装の男
を、今はぼつたり街から消えてな
くなつたが、つい先頃までは街の
突飛な人気物だつたチンドン屋の
中へ入れたとすれば、却つてその
まともな服装が、何かしら滑稽
に、むしろ見窄らしく見えると同
じやうに。しかし
それはあくまでも
私のフツと思ひつ
いた假設であつて
事實はさういふこ
とは絶対にあり得
ないことなのであ
る。

いし映画館用の大型のステールと
一寸した文字看板があれば人は決
して食堂を映画館と間違へて入る
ことはないのである。

時過ぎたばかりなのに、二三年前
の十二時過ぎのやうに暗い。いま
で動いてゐたもの、おしやべりし
てゐたものがフツと消えてなくな
つた感じである。空の星が話し相
手がなくなつて淋しそうにも見え
る。

しかし空のお星様には日本の非
常時といふものがお解りになる筈
がないことだから淋しくともそれ
は我慢してもらふより仕方がない
のである。
浅草の映画街は同時に食欲の街
である。腹が減つたから食ひたく





李香蘭は大船で何を撮るか？

李香蘭の大船映画出演は果して實現するか、或は又これも大船の一特色として不発弾企画に終わってしまうのか。

この話題は例の李香蘭の日劇事件が、大きな社會問題とまでなつた後なので、巷間に種々な取沙汰

俳優登録の問題はどうなるか——などの問題が起つてくる。李香蘭が大船映画に出演すると云ふことは誰しも意外に思ふことだ。何んとならば彼女の今日の地位は「白蘭の歌」支那の夜「熱砂の誓ひ」等の東寶映画に依つて築かれたものだからだ。もと／＼彼女は満映スタアとして東寶に借りられたもので、映画に依る日満提携がその大きな役割だつた。然るに現在の彼女の人氣たるや實に怖るべきもので他を尻目にかけて第一位に登つてしまつた。それも皆東寶映画のお蔭である。然るに彼女がその東寶とは反對的な立場にある大船映画に出演すると云ふのだから世の中は全く複雑怪奇で、その裏面に松竹流の商才が活躍したことは想像に難からぬところだ。



大船は従来鎖國主義でやつて来たが、製作制限に依る一本勝負の興行を餘儀なくされ、以後大船以外からの人材をも採用する主義になつて来た。事實まづお手近かな水ノ江瀧子や井上正夫、水谷八重子が動員され更に朝鮮の文藝家、崔承喜等の出演映画も既に企画として發表されてゐる。

扱へ李香蘭の出演映画は佐野周二の歸還直後に企画されたものだ。佐野、李香蘭のコンビは長谷川一夫郎李香蘭のそれに優るとも劣らぬ、と云ふ興行的確信を握んでの松竹主腦部が、急速に表面化したプランである。歸還勇士で大船のホープたる佐野周二と今を時めく李香蘭との組合せは蓋し壓倒的な人氣映画となることは必定である。松竹の企画が何時も乍ら興行的には鋭い面を持つてゐることは頷けるが、果してその映画の内容は如何なるものか灰聞するところに依ればその原作ともなべきストーリーの執筆を、松竹では大佛次郎氏に依頼し同氏は既にその執筆を開始したとのことだ。松竹が従来

の安易な製作態度から一步を進めてかゝる映画の原作を他に依頼した慎重なる態度は結構である。日支親善をテーマとする民族的スペクタクル映画で假題「中華の女」とのみ。李香蘭の俳優登録の問題はこの一本のみ現

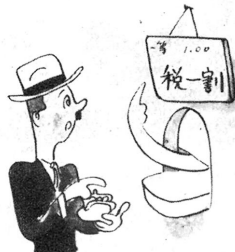
支那事変と映画史



④十二月二十日南京城を完全占領した七十日間は、京、京入行たれ。眞實東寶東京撮影所の所、祝賀列、中央義立のぼる



⑥五月一日、シリスン統制、木々、松は眞寫。炭をスパに轉向。見所都京竹



昭和三十年

⑤四月一日の、よりの入、四月一日の、場税施、アッも時局を分擔する



昭和十二年

①七月七日深夜北平郊外蘆溝橋附近に於て事變勃發



②十七日に帝國政府自衛行動の止むなきに至れるを中外に聲明す。寫眞は千人針を縫ふ東寶の花井蘭子達



⑦東寶東京の鬼才として譁はれた山中貞雄監督は名作「人情紙風船」を最後に陸軍佐長として應召以來大陸の戦野を轉戦すること十數度、赫々たる武勳を樹てたが、徐州陥落の暫し前陣歿した。寫眞は故山中佐長長の應召の日平安神宮にて



③八月八日北平入城、十月二十四日上海總攻撃と皇軍破竹の進撃は翌十一月六日獨伊防共協定の調印で更に世界の耳目を震撼させた。寫眞は祝ふ松竹京都スタア連

とにかく勉強だね

「あ、よく来てくれたね。ほんとによく来てくれた。いや、どうも久しぶりでした。どうも、ますます綺麗だね。いや、寂しやなく……ええと、高峰さんとは……松竹、大船を辞めて以来かな？ いや何處かで一度……試寫の歸へりだつたかな。身體が悪かつたんだつてね。え？ もうすっかり良いの、さう、それやよかつた。心配してゐたんだよ。あなたは弱さうなんだね。何？ もう仕事してるの？ それやよかつた——」

よかつた／＼と合點しながら島津監督は高峰三枝子を案内して行く。かたくなしく師弟と呼ぶにはあまりに親しく、近しい雰囲気である。高峰三枝子の島津映画出演は「朱と緑」以後——「日本人」「婚約三羽鳥」「浅草の灯」「愛より愛へ」等——大きな波紋を残して昭和十四年六月島津監督が東寶に去るまで、殆どの島津作品に彼女は出演してゐた。今日の彼女の地位は島津監督によつて得たと言ふも決して過言ではない。



——さうかね
いやさうかも
知れない。何
しろ東寶に來
てから生活に
ゆとりが出來

島津保次郎(東寶)
高峰三枝子(大松竹)

たからね。氣持の上のね。それに今、野球部長をやつてゐるんだ。楽しいよ、實に楽しいよ。みんなよくしてくれるからね。こゝはいよ、それで若く見えるんだらう——

——お仕事は如何ですか？——

「仕事？ 仕事はこれからだ。やつと俳優さんに慣れたばかりだから。この役はあなたに演つてもらひたいな」と思ふ事がよくあるよ。矢張り知つた人が使ひいゝからね。何しろ俳優を知らなきや駄目だ。だから仕事はこれからだ——

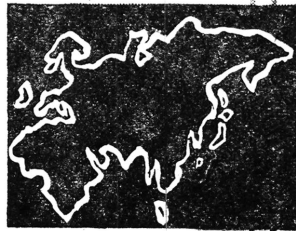
「先生、私なんだから不安なんです。先生から離れてから行詰つたやうな氣がして——」

——そんな事はないですよ。随分巧くなつた。戸田家の兄妹、なんかよかつたんだけど、いつまでもあなたの柄の役ばかり演つてゐてはいかな。柄でない役を演つても新境地を拓いていかなくては……それからもう高峰さん位になつたら自分で演りたいものを自分で企圖して、會社に持ち出してもいいよな。とにかく勉強だね。それからまづ身體を丈夫にすること……

一言半句も聞きのがすまいと高峰三枝子は緊張する。
東寶撮影所の中庭、初夏の日も、もう影が強い。
(背景は島津監督と高峰三枝子——東京東寶撮影所芝生にて)



世界の映画界はどう動いてゐるか



世界人最大の娯楽機關であり、且また近代國際宣傳の花形たる映画は、世界においてどんな活躍を續けつゝあるか。この一文は簡潔に世界映画界の現状を傳へて餘すところがない。世界を知ることが日本を知ることだ。私達は今こそ、日本映画の使命と位置とを再認識しよう！

野口
久光

今日の戦争は、數世紀前、いや數十年前にすら豫想することの出来なかつた複雑な性格を持つやうになつて來てゐる。第一次世界大戦が既にさうであつた如く、戦争は武力戦だけでは勝敗を決することは出来なくなつた。今日の武力戦は、益々高度の科學兵器戦となり、立體化されていく一方、經濟戰、宣傳戰(思想戰)には、あらゆる文化的所産が一齊に戰爭目的、即ち國家目的のために動員され、複雑な近代戰を構成してゐるのである。文筆戰は元より、電波による戦ひが今次の歐洲戰爭の花形た

ることは勿論、映画もまた、思想文化戰の武器として、多角的な近代戰の一翼を擔つて、戦ひを續けてゐる。従つて、或る國の映画界の動向、變貌を、さうした國家情勢や政治、思想を切り離して考へることは不可能である。映画はもはや、無邪氣な見世物や、スクリーンに投映された伽噺であることは許されなくなつてしまつたのだ。映画は金儲けの手段として功利一點張りの資本家の獨占物たることも、古いタイプの藝術家のエゴイズムを満足させるだけの自慰に戯

ばれることも許されなくなつた。今や世界の強國はすべて、映画をその國の目的方向にどうしても向けることを必要とする時代となつたのである。この稿は、今日の世界映画界の動きをなるべく平易に、全般的に述べることを目的としてゐるので、便宜上これを國別にお話することにしたい。

常に國家意識の上に立つて宣傳戰の花形たる獨逸映画

ではない。しかし、今日の獨逸映画は、國家の目的に添つて、著しい變貌を遂げた國はソ聯を除いて先づない。第一次大戦前の浪漫主義時代はさて置き、第一次大戦直後から、ナチス直前までの十數年の間に獨逸映画を世界市場に活躍させるだけの隆盛時代を築いたのは、エリツヒ・ボマーを始め、今日アメリカその他の國に逃避することを餘儀なくされてゐるユダヤ系の藝術家、資本家であつた。これらの人材によつて獨逸映画は世界的なレヴェルを保ち、經濟的苦境にあつて獨逸を多少とも

支えてゐるのであるが、ナチス政權の出現によつて、このユダヤ系資本家、藝術家は一夜にして祖國を追はれた。そして獨逸映画はこの年、即ち一九三三年から數年間といふもの、質的にも、内容からも非常な低下の状態を續けた。云ふ迄もないユダヤ系の人材を一時に失つた獨逸映画界はそこに貧しい技術と、露骨なナチ色ばかりになつてしまつたのである。だが一九三五、六年頃からは、ナチスの藝術家の奮起によつて優れた映画がぼつぼつ擡頭するやうになつて來た。「指く「オリムピア映画」カ

市川猿之助丈に映画と演劇に就いて訊く



市川猿之助丈と會つてみると、「勸進帳」の舞臺の烈しさ、逞しさの感じが感じられ、まだ「吾々」青年の身近にゐる壯者と云つた印象を受ける。まこと、市川猿之助丈は歳を忘れ、ひたすら藝道に精進してゐる人だ。

「マキノ・キネマで『天一坊』と伊賀屋『日輪』に主演したのは、關東大震災の直後ですから十七年以前の事です。今日の映画の進歩をまのあたりみて、回想しますと、感慨深いものがあります。あの頃はドランならぬ、白粉でしたし、照明も電球でなく、カーボンでしたから、大變でした。『日輪』のときは、奈良で野外撮影をしましたが、今日のように銀紙の反射でなく、鏡でした。とにかくいろ／＼面白いことがありましたよ。昨日もセットで衣笠さんとその頃のことを話合ひましたが、衣笠さんは私の二枚目振がとてよかつたと言つてましたよ」

——『川中島』に主演する動機は？
「東寶映画と契約する迄にいろいろの道程はありましたが、それはマネージャーに任せてゐましたので、觸れませんが……私が十七年振りで映画に出演する決心になりましたのは、映画界がトッキーを

自由に驅使出来るようになったからです。忘れもしませんが十七年前に、衣笠さんと『日輪』を撮影してゐましたとき、なんとほなく衣笠さんに「映画でセリフがしやれるようになったら又お願いしますよ」とお願いしたことがありました。その頃は夢想に出来ませんことでしたので、笑ひ話のつもりで言つたのですが、しかし今日になつてみますと實際、奇しき因縁、そんな感じがしますねえ。幸ひその頃の約束ことが實現しましたので映画に出演することになりましたが、松竹ならぬ東寶映画に出演する氣になつたのもすべて衣笠貞之助さんに準じてなのです」

『日輪』に主演した頃と、『川中島』の今日を比較して何か感想を

「全く驚愕的な進歩ですねえ『日輪』に使つたカメラと『川中島』に使つてゐるミツチエ、カメラでは、鐵道博物館にある機關車と最新型C-8號機關車ほどの差がありますねえ。カメラも手廻しで廻轉させてゐまして、今日の様なモニター設備はありませんでした。同時録音撮影、クレーン使用なども驚愕です。確かに映画事業も企業化された今日、實に整備してき

大陸撮影紀行

倉谷 勇

大都映画、戦陣訓「母と戰場」の大陸ロケより歸還した倉谷勇監督のロケ便りである。

松井技師、福島製作主任、田邊助手、そして私と、第一班の四名が東京を發つたのが七月卅一日——雨の日でした。車窓を載る銀の綫を眺めながら田邊君が「初日から雨とはかなわんなア」とつぶやくと、松井さんが、

「向ふで雨にたゝられるんと違ふかなア」と合槌を打つ。

「冗談ぢやねえ、雨後晴です」と福島君が流石に製作部らしいことを云つてゐますと、成程箱根を越えて、曇、鈴鹿を越えて晴、九州路に入ると蟬時雨でした。長崎の夜が興亞奉公日で、翌二日に乗船。三日の午後、予定より二

時間半ばかり遅れて上海に着きました。

早速上海報道部を訪れると、こゝで専ら映画方面を受持つて居られる辻上等兵殿が、往年の「映画評論」の辻久一氏であつたのには驚かされ、同時に我々一行四名初めての大陸行なので、地獄で佛に合つた様な氣持でした。それ以來すっかり辻氏に



おんぶして丁ひ、とうく我々の撮影豫定地の蘇州まで、その特務機關に連絡をつけて下さるため態々同行して頂き、その上にその翌日の雨の中のロケ・ハンまで立會つて頂く始末で、

たゞく恐縮の至りでした。この蘇州行には辻さんの他に、中華映画の製作部の鈴木秀吉郎氏にも同道して頂きました。辻さんのお口

添へもあつて、我々土地不案内の同行四人は、中華映画の野坂次長にお願ひして、土地に明るい鈴木さんを撮影期間一杯までお借り出来ないものかお願ひしたところ、快くお貸し下さつたのです。

支那語の解らぬ我々のために（上海で速成上海語といふ本を買つて俄勉強をしても追つかないです）通譯から宿屋の世話からは、では撮影の進行までやつて頂く始末で、當方から申せば百パーセントの借用能率を挙げたのですが、實際この鈴木氏が助力して下さいなければ我々一體今ごろどこをマゴゴしてゐるか解らなかつたことせう。

敢て鈴木氏のみならず、野坂氏のみならず中華映画の方々は皆、ほんとに心から親切に我々無遠慮な旅行者を引き廻して呉れました。そして、これは餘り大きな聲では云へませんが、（中）寫眞は「母と戰場」蘇州ロケ・スナツ、左倉谷監督、中央クモイ・サブロー。

華映画には内緒ですが）この後とも大陸に初めて撮影に行かれる方は必ず中華映画の門を叩くことをおすゝめして置きます。「叩けよ！ 然らば開かれん」と西哲も亦すゝめて居ります。

處で、蘇州——こゝは既に東寶の「支那の夜」で紹介済の街。更に流行歌「蘇州夜曲」で詩の街とか戀の街とか名付けられてゐるとかださうな街。

併し、我々の映画は別に蘇州紹介映画でもなく戰場物なので、寒山寺も楓橋も虎邱山も西園も、又寶帶橋も必要では無く、たゞこの街を本據として近くに支那部落を探し、戰場を求めただけです。

れました。南京縣は覺悟の上としても、薄汚い風通しの悪い部屋に寢臺が一つ、モーションと稱する便器が置かれ、蠅が飛び廻り、しかも夜ともなれば名物の野雞（鶏に非ず、別名を姑娘）が廊下せましとひしめき合ひ、奇聲嬌聲囁言に及び、一室、胡弓をひつ奏で、放唱して鶏鳴と美聲を競へば、他家麻雀を掻き廻はして喧を競ふと云つた有様で、たゞく驚き、あきれ、結局一睡も出來ず、翌朝、辻、鈴木兩氏の眠り足りた顔を見るに及んで、成程此の郷に入つた人達、及び此の國の人達の神經の太さが解つた様な氣がして、覺悟の上に覺悟を重ねさせられました。

翌日は一行六人が更に蘇州特務機關の宇佐美氏のはからひでトラックを都合して頂き、宇佐美氏の拳銃に守られ乍ら横塘鎮、楓橋、虎邱山三方面にロケ・ハンしました。

朝來の雨模様は午後にな

映画界の話題

第三製作所はどうなるか



松竹・東寶映画系は既に合併方針が着々具體化してゐるに拘らず、第三製作所の遅延は一に日活内部の紛争の故と傳へられる。第三製作所はどうなるか？

進まない第三製作所案
臨戦體制も本きまり、劇映画の方が三社で月六本の製作となつた事は皆様御存知の通りである。

所がきまりはきまつたものの、その具體的な進行はどれもハバカシくない。といふのも、何しろ日本映画界初まつて以來の大事件である。實行に移してみるといろいろな疑問や摩擦が出て来る。それだけでも大變なのだ。
その上、殆ど無疵で残つた東寶映画や松竹でさへ、一部にはこの新體制への移行を心からは賛成し切れない者もある。その連中は、殊更に進行を鈍らしてゐると見る人さへある。が、これは云はば彌次馬の無責任の放言としても、そんな話が亂れ飛んでおる。まして新興日活大都の三社を合併して一

社を作る所謂第三製作所の組織の方がより以上ハキハシしないからとて、その關係者のみをグイグイ責めたてる譯にも行かなからうではないか。

尤も、これをはつといは、新體制の佛作つて魂入れず、になる。そこで情報局では、一般の劇映製作體制を促進する爲、一つの委員會を作つたが、特にこの三社合併を進行さす爲には、別に小委員會を作つたものである。

第一の問題、日活の豫めごと

では、三社の合併には何でさう手間がかかつてゐるか？
理窟はなくとも、今迄は各自獨立して製作配給の一貫作業をして來たのである。それが一つになるだけでも何かと具合が悪いではないか、そこへ持つて來て、中の一社、日活はここ數年來社内にゴタゴタがある。それが大きな祟りと

なつてゐる。

日活のゴタ／＼は近年の映画界の年中行事で珍らしくもないが、ここ一年は二大株主の松竹、東寶劇場と前重役との攻防戦だつた。所が、二年がかりの松竹、東寶劇場側のこの工作が漸く奏功して、十月上旬、森田社長、大藏常務の二重役に業務執行停止、引續き官選代行重役の登場と迄こぎつけたものである。

この前後皮肉にも臨戦體制で日活は合併しなくてはならなくなつた、つまり益と正月が一べんに來てしまつた譯である。その社内整理なり、對外整備が出来ない中は合併し兼ねるといふ事になつてゐる。

十月二十二日の第一回特別委員會の顔合せの席上、新興の永田雅一氏は「合併進捗は日本映画界全體の爲でもあり、従業員の仕事も考えてやらねばならぬ。第一、日活

の爲に新興大都がスタート切れんことは迷惑千萬。何なら、日活を除いて、新興大都だけで第三製作所を組織したい」と迄提案したが日活の大株主としての松竹代表大谷竹次郎氏も、東寶劇場代表の吉岡重三郎氏も、共に「この重大問題は一個人で即答出来ぬ」とつっぱねてしまつた。その爲に十月三十日の次回の日活株主總會迄萬事延引となり、従つてこの第三製作委員會も、次回はその後の十一月三、四日といふ事になつてしまつた。

三十日の總會できまればまだよしとして、これが又延びるやうだと、第三會社のスタートは又延びる。それではいかん。永田氏の委員會での發言もこの邊を懸念してゐたが、情報局も「相當な決意をして居ります」と席上回答してもゐたから、さうなつたら或は、日活だけ除いておいて大都新興だけ

望展の界画映化文

業情界の 新作品と

→「或る保母の記録」



業界の情勢を見る

先月統合問題を豫想しておいたが、愈々具體化されて官民懇談會に入つた。現在の情況をみると討議は着々進行してゐるからこの稿が出る頃には或は統制案も決議されてゐるかも知れない。

前號でふれておいたが二百餘社

もあらうといふのだから統合の骨の折れる事は一方ではない。が結局のところ實績から割出して三十五社が認められ更にこの會社を統合して新設會社をつくらうとするに至つたのが十月廿七日現在までの運びである。従つて第一次許可の製作會社の既得権も御破算になつたし、他の百數十社といふものは自然消滅になつた。又既得権のあつたメン／＼の中でも新設會社への参加を見合せてゐる。例へば新聞社關係の映画部は先日占つた通り日本映画社と歩調を合せることになり、東寶文化映画部、十字屋も、日映に吸収されることに決定した。松竹文化映画部は情報局の意圖によつて劇映画に吸収せよと申渡されたが、これ又日映に参加を申込んでゐるといふ噂であるがこの方は未だはつきりしないといつた具合だ。この外櫻フィルム、横シネ（文化映画部は別）富士フィルムもラポラトリーとして日映傘下となつた。情報局の氣持ちとしては前記三十五社中、いくらでも日映に走つてもらひたいらしいが、日映としてもそれ程の大世帯を賄ふ金力がない故に、具合には行かない。

生残つた會社を内閣すると舊第一次許可組五社、十五社會、關西組十二社、他の四社グループの三十五社。第一回、第二回官民懇談會は十月廿四日、廿七日情報局で行はれたが、例によつて官廳側から情報局、文部省、内務省の各係官、民間側からは各グループを代表して電通、日本映画科學研究所、東亞發聲、東亞文化映画協會、理研、加治商會、横シネ、藝術映画、深田商會、光音文化映画製作所、皇國映画、朝日映画、サワダ商會、旭日映画、都商會、都映画の十六社が出席。情報局は一社案を提議し、民間側は數社（二社乃至三社）を主張したが兩者の案の理論的な根據が薄弱なため改めて再検討した上で討議することになつた。席上問題になつたのは日本映画社の製作する文化映画一本を新設會社に委せてくれといふこと、又ラポラトリーの過剰をどうするかなどだが統制案の大綱が定まらない以上この問題はケリがつく筈はない。

月三種、九〇〇呎（一巻物）各プリント五十本といふ場合、三社になつたらと假定する。一社月一巻物の製作本數になるが、これで營業上成り立つて行くかといふに立派にやつて行けるさうだ。それよりも困るのは一巻物では良い作品を望むのは一寸無理だ、それで二巻物をつくる、と同量のフィルムの配給ではプリント數がグンと少くなる、こうなると營業上の算盤が怪しくなる、あちら立てればこちらが立たないといふ勘定になる。もつとも三社にした方が統合ははかどるといふのが業者の云ひ分である。資産の評價その他の事情からみても一理はある。がとにかく今日の五十より明日の百を考へて百年の大計を立てゝ欲しいといふところだらう。ところで三社になつた場合、夫々の會社のインシャイヴを握るのはどこかといふと資本力の大きい會社といふことにならう、結局朝日、理研、横シネなどが有力な候補だがこれ以外に債務が多く、それを片ずけるだけでも大變だらう、たゞ新潟の石油王がボケット・マナーで經營してゐる皇國映画社の財力が測りしれないだけにこちらが案外のダーク・ホースともみられる。

新作品の展望

この邊で新作品の展望に移らう。既に完成したストック品は七



下時單戈 重映の春初



決戦奇兵隊(1) 維新後諺評として起つた國の功勞を頌へ、晋作の指揮する奇兵隊と、奇兵隊に加へられた單純にして無智なる農民達が如何にして立派な兵隊に鍛成されて行つたが、即ち高杉晋作の指導精神と功勞をたゞへんとする映画で、原作脚色演出は丸根賛太郎主演は嵐寛壽郎、他に澤村國太郎、原健作、宮城千賀子、橋公千等が共演してゐる。(日活京都作品)

武藏坊辨慶(2) 山梨水明、嶺山の廢寺に住暴に敢然と立ち上つた若き日の辨慶が賀茂川にかゝる五條橋上で牛若丸と主従關係を結ぶまでの人生行脚に取材する一篇で、作・比佐芳武、演出・渡邊邦男、主演は岡譲二、山田五十鈴、高峰秀子、黒川彌太郎、小高たかしである。(東寶映画)

微笑の國(3) 職工のふとした思ひつきによつて創られた樂園が、遂には堂々たる大吹奏樂團に成長するまでの經過を喜劇的に描き、心を樂しましめ士氣を鼓舞する工場音楽の重要性を強調するもので、原作脚色は伊藤章三、監督古賀聖人、主演は杉狂児、轟夕起子、共演・小宮一見、潮萬太郎、古川登美、(日活多摩川作品)

希望の青空(4) 現今適切な問題となつてゐる「結婚」を眞摯な態度でしかも明朗に描かうとするもので、山崎謙太、小國英雄の應援を得て山本嘉次郎が執筆し、自身で演出するもので、高峰秀子と新人池部良を主役に、東寶第一線スターが總出演してゐる。(東寶映画)

柳生大乗劍(5) 一代の劍聖柳生十兵衛を通劍の高邁なる大乗精神を強調し、獨眼の豪傑向ふ所よく邪惡を破り國土の大亂を未然に防ぎ萬民の幸福の爲に敢然闘ふ、劍聖の面目躍如たる薩摩への隱密旅の波瀾多彩色な行動を描くもので、脚本瀧川紅葉、演出池田富保、主演坂東妻三郎、共演は尾上菊太郎、小川虎、遠山満、宗春太郎、深水藤子等である。(日活京都作品)

春遠からじ(6) いまはなき父の遺志をついで地下資源開發に専念敢闘しつゝ、非常國家に奉公の誠を盡してゐる若き女鐵山主の高貴な姿を通じ、大東亞決戦下の統後國民の共感を求める一篇で、原作・神崎武雄、脚本・阿山鐵、演出・久松静児、メンバーは宇佐美淳、若原雅夫、小柴幹治、黒田記代、美鳩まり、淡島みどり等である。(新興東京作品)

元祿忠臣蔵後篇(7) 既に前篇を興亞映画の國民映画として世に贈り、幾多の話題を提供した「元祿忠臣蔵」の後篇は引き続き日下

各社の企畫を採る

今や映画は國民娛樂とは云ひ乍ら政治的效用宣傳啓發のための役割は實に大きくなつた。各社の企畫も慎重だ！



東京

松竹

大東亞戦争が勃發するや、城戸四郎所長は全所員を集めて、戦争が長期戦に及んだ場合、戦争目的の完遂のために如何に映画の果すべき使命が大きいかを説いて、更めて全従業員に覺悟をうながした。

それと同時に原作物依存が過半数を占めてゐた企畫が急に改變されて、オリジナル物が次々に企畫にのぼつた。映画臨戦體制案に添つた方向をとつてをれば、なにも大東亞戦争が起つたからと云つてそれ程狼狽することはあるまい。この時代には、矢張り原作物にばかり被ひかぶさつてゐることは出来な。

吉村公三郎は、朝日新聞連載、獅子文六原作の「南の風」を五月

まで延期して、その前に一本間諜物を製作することになった。木下恵介、津路嘉郎の共同執筆になるもので、「間諜未だ死せず。」これは、支那留學生が誤つた抗日精神から、日本女性の心からの愛情によつて目覺め、眞の日支親善に協力するが、やがて奸漢として殺される。それに國際スパイ團の活躍を織り込んだ物語りであるが、演出にあたるのが吉村公三郎だけに従來、日活や新興などで多く作られた間諜物とは違つた、相當見たへのある作品が出来たのだらう。

原研吉は、「花咲く如く」を中止して、直ぐ「三人姉妹」に着手することになった。脚本は柳井隆雄と武井韶平の共同執筆になるもので、出演者は、上原謙、齋藤達雄、坂本武、高峰三枝子、三浦光子、葛城文子、朝霧鏡子、森和美（新人）等の顔振れである。

慈愛深い人格者として金銭に執着せず、愛情にのみ終始した父（藤）を失つた野々山家の母（三女）は、三女一男の幼い姉弟をかかえて、父の在世中の生活を今後如何にすべきかにまどひ、二女邦子（朝霧）と恒雄、母と長女英子（高峰）、三女芳子（森）と、それ

一家離散して親戚の世話になることになる。暖い父母姉弟の愛情に育まれてきた子供達は、何とかして元通りの生活を楽しく送らうと、今迄の生活を清算して、新しく切りつめた生活に一家協力することを誓ふ。これは、小津安二郎の「月田家の兄妹」にやゝ似たシチュエーションを持つたもので姉弟愛と友情が物語の骨子となつてゐる。

満映と松竹との共同製作による「サヨンの鐘」は、佐々木康が演出を擔當し、清水宏がこれを指導補佐することになった。

これは、昭和十三年、事變突發後間もなく起つた實話に取材するもので、臺北州リヨン藩社の警官であり、先生である由比正記氏が應召出發する時、暴風雨をついて荷物の運搬に従つたサヨン・ハヨンといふ十七歳の少女が、吊橋から足を踏みはづして川に落ち、一命を失つた事實である。脚本は、清水宏、佐々木康、長瀬喜伴が共同執筆した。サヨンには満映の李香蘭が扮し、この映画の中で矢張り相當彼女に歌はすらしい。その他大船の俳優が大勢出演することになるだらう。

東寶

「櫻の國」に次ぐ澁谷實の監督作品は、齋藤良輔のオリジナル脚本「ゆかりの花」(假題)と決定、十二月廿三日に本讀みが終り、愈々着手することになった。これは、昔かたぎの職人が現代に目覺めて科學する心に専念し、コンニャクからゴムを作る研究に腐心する。その父親を助ける子供達の愛情を中心に發展する物語りで、主なる出演者は、河村黎吉、佐分利信、田中絹代、三宅邦子等である。

最初から豫想されてゐたとは云ふものの、所謂國策映画とも云ふべき「指導物語」八十八年目の太陽」等が、意外な營業成績不振のため、會社側では大狼狽して、急遽企畫を擲て直した。それが、言語樓主演、青柳信雄演出の「我が家は榮し」や、岡譲二の辨慶、高峰秀子の牛若丸で渡邊邦男が演出する「武藏坊辨慶」ではどうにも困る。正月物として、松竹の「蘇州の夜」に對抗して、マキノ正博演出、長谷川一夫、古川緑波共演の「男の花道」はまだ許せるとしても、何時迄もこんな状態ではない。米英との開戦を機會に、